一般社団法人
日本胡麻協会
Japan Sesame Association

広げよう ごまで幸せづくり





日本胡麻協会 会　報

【第51号 2026年10月15日発行 】

〒604−0845
京都市中京区烏丸御池上る 二条殿町546
NT都ビル9階　わだまんサイエンス内
TEL: 075-222-7318 / FAX: 075-222-0318



感想文：２０２６年7月9日 ごま福堂 湯布院店 講習会

◆松本 翔太郎（ごま福堂 湯布院店）
今年も湯布院へお越しいただきありがとうございます。
毎年のことながら、今年度も湯布院ごま福堂にて講習会を開催いただけることを、うれしく思います。
今年は新たに 2 名、胡麻を搗き始めるメンバーを迎えたというところで、スタッフ一同ご指導いただけることを楽しみにしておりました。
なかでも古家さんにとっては、初めてのごま搗きを深堀さんから直接教えていただけたということで最高のタイミングであったと思います。
自身にとってもごまを搗く心構えや指導の仕方を再確認する良い機会となりました。スタッフに自身と同じように搗いていただいても、なかなか満足のいく胡麻に仕上げることができず、それぞれに合った搗き方があるということを改めて感じました。
来年も湯布院ごま福堂にて講習会を開催いただけるように、より一層湯布院のごまを盛り上げていきます。

◆榮木 毅彦（ごま福堂 湯布院店）
この度はご多忙の中、貴重なお話をお聞かせいただいたことを心から感謝しております。
これまでの自分はごまを搗く際に形式的な作法に捉われすぎていたように感じます。
これは自分の背景にある神道への興味が少なからず影響したのかもしれません。
ごまが持つ神秘の力、また向き合うべき作法が神道の儀式に通じる様に思っていました。
ごまを搗くことを始める前には松本店長の姿を見ながら非常に重労働である様に思っていました。
それがいざ、自分で体験してみた時に何か、まるで上から助けてもらっているような不思議な感覚を覚えたことを記憶しています。
もしかしたらそれはごまの持つ力、そして店長のご指導などの見えない力に助けられていたのかもしれません。
このような経緯で、いつの間にかごまを搗くのはこうしなくてはいけないと言葉や形ばかりにこだわっていた様に思います。
今回、深堀さんのお話を伺ってハッと思いました。
一番大切なのはこうしなくてはいけないという様な作業的なことではなく、気持ちの問題であることを改めて認識しました。

「言葉は何でもいいんですよ」と深堀さんは話されました。
謙虚、感謝、そして平和をごまを搗くことで体現する。
煩悩だらけの自分にはなかなかの心構えではありますが、偶然にもこのような仕事に就けたことを喜びに感じながら、お客様と接していこうという思いでいます。
次にお会いする時により深化した自分でいられるように、今後も励んでいきます。
気付かせていただいたこと、心よりありがとうございます。

◆古家 百花（ごま福堂 湯布院店）
今回の講習会では、商品に対する気持ちの持ちようやごまの基本的な知識を身に付けました。
今までは感謝の言葉は基本的にはお客様だけに伝えていて、正直商品に対しては無の感情で接していたと感じます。
自分が販売する商品について理解することはもちろんですが、感謝の気持ちを忘れず丁寧に扱い、純粋な心で接することでより美味しさを提供することが出来るのだと学びました。
ご丁寧にご指導して下さり大変感謝しております。
また、講習中私の心が純粋で綺麗だと仰ってくださりありがとうございました。
あまり実感はなかったのですが、深堀さんの伝えてくださったことを記憶に留め、今後も前向きに仕事を行って参ります。
本日はお忙しい中貴重な体験をさせていただきありがとうございました。









感想文：２０２６年１０月５日 ごま福堂 函館店 講習会

◆泉 昌代（ごま福堂 函館店）
初めに、講習会および試験を実施していただき誠にありがとうございました。
今回で 2 回目の受講となりましたが、大変興味深いお話ばかりで、あっという間に時間が過ぎてしまいました。
今回の講習では、胡麻搗きの心構えからお作法までをしっかりと学ばせていただきました。
その中で「自己都合の心は味や香りを悪くする」と言うお話があり、普段搗きながら、どこかで「売れますように」と考えていた自分に気づかされました。
「謙虚心」「感謝心」「平和心」を胸に刻み、搗いてまいります。また忙しい時には作業になりがちな作法も、正しく身につけていきます。
来年、さらに成長した姿を見ていただけるよう励んでまいります。お忙しい中、本当にありがとうございました。

◆長島 愛美（ごま福堂 函館店）
先日の講習・試験、有りがとう御座います。
話を聞けば聞くほど、昔、法事などで説法や法話で聞いた「礼に始まり礼に終わる」と言う言葉が終始浮かんできました。
ごまと向き合う とは目に見えない思いとの対話であると感じました。
それは例えるなら「人の人生」のようなもの、と思います。
冷たく接すれば、冷たく返ってきて、優しく接すれば同じように優しく返ってくる。と幼少期に親や祖父母から口酸っぱく聞かされてきました。ごまにも似たような所があると感じました。
そして販売面だけでそれらを伝えきるのはとても難しいことだと思いました。
ほんの数分でのやりとりでほんの一握りの思いが届けば良いなぁと思います。

◆岩﨑 千恵（ごま福堂 函館店）
セサミマイスターの講習を見学させていただきました。
一番の気づきは、搗く人の心の状態が香りや味にそのまま影響するということです。
「謙虚心」「感謝心」「平和心」の三つの心を持ち、丁寧な作法で行うことで、言葉がわからなくても想いがしっかりと伝わることを学びました。
パック詰めのやり方を練習中、海外のお客様がその場で一袋購入してくださったことがありました。とても驚いたと同時に、すごく嬉しく忘れられない瞬間となりました。
技術の奥にある「心のあり方」の大切さを実感できたとても貴重な時間でした。
このような素晴らしい機会をいただき、本当にありがとうございました。







